

徳島県立二十一世紀館協議会 会議録

1 日 時 令和7年9月4日(木) 13:30 ～ 14:30

2 場 所 二十一世紀館会議室

3 出席者

【委 員】 10名中7名出席
横畠会長、田所副会長、相原委員、池戸委員、小喜多委員、
竹内委員、林委員

※欠席委員 武田委員、寺西委員、福本委員

【二十一世紀館】

館長、副館長、館員4名

4 会議次第

1 開 会

2 二十一世紀館長挨拶

3 議 事

(1) 令和6年度事業実績について

(2) 令和7年度事業概要について

(3) その他

5 閉 会

【議事（１）令和６年度事業実績について】

【議事（２）令和７年度事業概要について】

事務局	（資料に基づき説明）
委員	防災に関するイベントを開催するとのことであるが、夢ホールでも１２月２１日の昭和南海地震の日に開催する予定である。スタンプラリーが面白いと思うので、参考にさせていただきたい。 映画会について、懐かしいものから最近のものまでいろいろ上映されているが、二十一世紀館で今年５月に上映した『９０歳、何がめでたい』の少し後に、たまたまほかの近くの会場では有料で上映していた。同じ映画が無料の後に有料ということで、ちょっと待っていただけたらと思った。 徳島県では、なかなかドキュメンタリー映画が観られないので、例えば、芸術家のドキュメンタリー映画などが大きな画面で鑑賞できるとよいと思う。 今年度、開催する「Ｒｅライブシアター」で、演劇が観られるということであるが、このイベントはいろいろな場所で行っているのか。
事務局	先月の８月に高松で開催された。当館が上映する作品とは、違う作品だった。
委員	来年度以降も続けるのか。
事務局	今年度、初めて実施するイベントなので、来場者の反応等を見て考えたい。
委員	今年度、能楽が実施されないことについて、イベントが増えているので全てのジャンルを網羅は難しいとは思いますが、残念に思う。 一覧に（新）がついている事業は、これからも続くということなのか。
事務局	（新）がついている事業は、初めてのイベントという意味である。来年度以降も続くかどうかについては、まだわからない。実施して好評であれば、来年度の実施、また来年度はできなくても間を開けて、また実施するということもありえる。
委員	毎年、実施することも大切と思う。能楽もずっと、開催されていたので、今年度も開催されると思っていた。復活してもらえたら嬉しい。
事務局	能楽も含め、人形浄瑠璃など他の古典芸能のイベントを開催してほしいというご意見もいただくことがあるので、そういうことも考えながら、来年度

にどのような事業を実施するのかを決めていきたいと考えている。

委員 魅力的なイベントを多く開催していると思う。感想としては、何となくファミリー向けのイベントが多い感じがする。大人が楽しめるイベントもないわけではないが、例えば「Ｒ e ライブシアター」というイベントに今、申し込みたいと思ったけれど、申込みは終了している。このチラシを見たことがない。たまたま自分が見つけられなかったのかもしれないが、このような企画がなぜ目に付かなかったのか。ＰＲや広報の仕方を考えた方が、大人が楽しめるイベントもたくさんあるということ知ってもらえる。

委員 学校にはチラシを送ってくれ、きちんと広報してもらっている。委員が言われたように、固定ではなく新しい来場者を開拓するような提案などがあれば、二十一世紀館に伝えていただき、その意見を集約してほしい。

（議事（１）、（２）については終了。）

【議事（３） その他】

委員 県外の友人が文化の森に行こうとして、ＪＲの文化の森駅に行ってしまった。県外の人が文化の森に来るのにアクセスがわかりにくい。これからインバウンドや県外からの観光客が来る際に、あの駅で降りたら混乱してしまう。お金もかかることだが、アクセスの改善や多言語化も含めてどうにかできないだろうか。まあ難しいとは思うが。

事務局 文化の森としては、バスの便を増やしてほしいという思いはあるが、交通に関しては他の部局が担当している。増便は、なかなか難しいところがある。バスについては、１日何便かは文化の森直通がある。

委員 徳島の方は、バスをほとんど使わない。車社会だから。

事務局 フェスティバルなどのイベント時には、駐車場が満車になるので、できるだけ公共交通機関を使用してほしいとは思っている。どのような形で広報していくかを考える必要がある。

委員 少なからずバスを利用している人もいるのではないかな？

事務局 利用している人はいる。受付ではバスの時刻表の配布をしているが、直通便以外は離れた所にある停留所になってしまい、不便をかけている。交通アクセスそのものを改善することは関係部署にお願いすることしかできない

が、公共交通機関が使いやすくわかりやすい広報に努めていきたい。
チラシ等を作っているいろいろな所に配布はしているが、本当に知りたい人に行き届いていないという課題がある。最近は、ホームページやSNSとかも使って広報している。

委員

私自身いろいろな場所に行ったが、文化の森は美術館、博物館も文書館もある恵まれた環境である。他県でワークショップをする場合、美術館なら美術館、博物館なら博物館しかなく、コラボするのが難しい。以前、二十一世紀館で勤めていたとき、文書館や博物館とコラボしたことがあった。普段は各館単位でのイベントが多いが、各館が会話して、例えば文書館が古写真を所蔵しているなどの情報を共有して、この立地を活かしたワークショップなどが開催できるのではないかと。ほかにはないコラボができるのではないかと。いつもの来館者だけでなく、いろいろなものに興味を持った新たなお客さんが集まってくれる。

委員

去年の11月に中学校文化連盟主催で、書道や絵画の展示などを文化の森でさせていただいた。そのときに近代美術館で「エミール・ガレ展」が開催中で、ガレにいられている人に声がけしたところ、3日間で、前年よりも多い2000人を超える多くの来場があった。中学生たちが生き生きと「こんなに多くの人に来てくれた。」って、ものすごく喜んでいて。これは小さなことだが、コラボイベントや、ここに来ればこんなこともやっているという輪が広がっていくことで一つの打開策になるのではないかと。二十一世紀館は、様々なイベントを実施しており、すごいと感動した。私はこの一部しか参加したことがないが、もっと参加してみたいと思う。

それでは、御意見も出尽くしたようなので、これをもって本日の議事については終わらせていただきたい。事務局には、議事の内容を今後の二十一世紀館の活動・運営に生かしていただきたい。